

## 2 モデル校実践報告 [岩沼市立玉浦小学校]

### (1) 実践概要

1年次及び2年次は、病弱・身体虚弱特別支援学級の児童(5年生)を対象に実践した。中学校の関係者や保護者にもモデル実践に参加してもらうことで、児童の実態や願い等を、関係者で共有することができた。そして、本児が交流学級の児童との関わりを深め、中学校進学への不安解消にもつながった。また、インクルーシブ教育システムに関する講演会を市教研と本校職員を対象に行ったことで、本事業の意義を学校内外に周知することができた。児童の卒業に伴い、3年次は、知的障害特別支援学級在籍の6年生児童3名を対象に実践したが、前年度までの実践を生かし、中学校との連携を継続した。保護者へのアンケートを基に、中学校進学・その後の進路について専門家の先生方から助言を参考に、小・中学校と連携を図りスムーズな移行へつなげた。

### (2) 平成30年度の実践の概要

|              |  |
|--------------|--|
| 重点的な<br>取組内容 | <p>(1) 対象児童の実態把握及び1日の学校生活の流れ(映像等で紹介)<br/>個別の指導計画、個別の教育支援計画の内容の検討</p> <p>(2) 特別支援学級での活動の様子(特支学級の児童との関わり)<br/>市教研との共催、講演会を実施<br/>演題:「共に学ぶ教育を進めるために考えておきたいこと」<br/>講師:寺本淳志先生(宮城教育大学)</p> <p>(3) 交流学級との活動の様子(交流学級児童との関わり、特別支援学級での交流場面)</p>  |
| 成 果          | <p>(1)について<br/>本児が入院中だったので、資料において本児の実態把握を行った。また、保護者及び本児の願いを基に、個別の指導計画(自立活動)に、『学習や行事などに円滑に取り組むことができるよう、個別課題に応じた指導・支援』項目を追加した。</p> <p>(2)について<br/>対象児童の様子についての理解が深まった。市内の特別支援教育担当の先生方が授業参観、講演会に参加することで、本事業の意義を周知することにつながった。専門家の先生方からは、「交友範囲を広げ深めるために、道徳や学級活動の時間を活用する。また、共に「遊ぶ機会」を意図的に作っていく。」ことの必要性について助言されることで、次時に生かすことができた。</p> <p>(3)について<br/>交流学級の児童数名を特別支援学級に招く形での交流を、本児童と総合的な学習の時間の活動に行った。関わり合いながら積極的に学習する姿が見られた。保護者と交流学級の担任に話し合いに参加してもらうことで、本事業の意義を共通理解することができた。また、中学校での生活や将来について、今後指導していくことの大切さを確認することができた。</p> |

|        |  |
|--------|--|
| 次年度の課題 | 本児が6年生になるので、中学校生活への不安を解消し、中学校入学に向けて意欲をもつことができるよう指導していくこと。また、中学校との連携を強めていくこと。 |
|--------|--|

### (3) 令和元年度の取組の概要

|          |  |
|----------|--|
| 重点的な取組内容 | <p>(1) 個別の指導計画，個別の教育支援計画の内容の検討</p> <p>(2) 講演会を実施<br/> 演題：「通常学級でのインクルーシブ教育の在り方」<br/> 講師：寺本淳志先生（宮城教育大学）<br/> 本児の将来（進学等）について（検討会保護者同席）</p> <p>(3) 中学校進学に向けて配慮したい点等について（検討会保護者同席）</p>  |
| 成果       | <p>(1)について<br/> グループ活動でのリズムアンサンブルを作る活動を通して、意見を交換しながら意欲的に取り組む様子が見られた。本児の実態把握・理解につながられるよう、中学校の特別支援教育コーディネーターにも検討会に同席してもらうことで、中学校との連携を深めることができた。（個別の教育支援計画の内容検討等）</p> <p>(2)について<br/> 本校職員を対象に、専門家チームの講師からの具体例を加えながらのインクルーシブ教育の理念や考え方等の講演を聞き、職員全体で研鑽を積むことができた。本児の保護者（父親）と中学校の管理職にも参加を呼び掛け、本児の将来（進学等）について話し合う機会を作った。その結果、中学校への引継ぎ等に有効な家庭の様子を詳しく伺うことができた。また、学習や部活動など、中学校生活の具体的な場面を想定して話し合うことができ、本児の中学校での活動のイメージが共有することができた。専門家チームの講師からは、本児の思いを聞き、いろいろな面で可能性を広げてあげることの重要性について指摘を受けた。</p> <p>(3)について<br/> 前回同様、本児の保護者（父親）と中学校の教頭・特別支援教育コーディネーターにも同席する中で、検討会を実施した。事前に保護者にアンケートに答えてもらい、その回答を基に話し合いを行うことで、中学校生活やその後のことなどについて様々な助言をいただいた。本児は今年度で卒業となるが、来年度も継続して情報交換していくことを確認した。</p> |
| 次年度の課題   | 対象児童が卒業するため、対象児を変更し本モデル実践3年次の取り組みを行う。  |

#### (4) 令和2年度の取組(まとめ)

|               |  |
|---------------|--|
| 指導目標          | <p>(1) 中学校生活への不安を解消し、中学校入学に向けて意欲をもつことができるよう指導していく。</p> <p>(2) 中学校との連携を図り、支援体制強化に努める。</p> <p>今年度は、昨年度までの取組を踏まえて、3名いる6年生児童(知的障害学級)が不安なく、意欲的に中学校へ進学できるように実践を継続していく。内1名の児童は、中学校から通常の学級への措置替えを検討しているため、その点についても話し合いをし、指導につなげる。また、昨年度までのモデル実践対象児童の中学校での生活の様子についても、中学校側と情報共有する。</p>   |
| 指導目標に対する主な手立て | <p>(1) 対象児が変わったために、まず児童の適切な実態把握することから始める。そして、中学校進学について、本人や保護者が期待していることや不安に感じていることなど、自由記述でアンケートを取り、それらの回答を基に、専門家チームから助言をいただき、今後の指導に生かす。</p> <p>(2) 中学校の特別支援教育コーディネーターにも検討会に参加していただくことで、中学校との連携を深める。</p>   |
| 経過            | <p>(1)について</p> <p><b>【9月】</b></p> <p>モデル実践事業に参加する全員が対象児童の実態について共有した。学習や生活の様子ばかりでなく、本人・保護者・担任の将来(中学校進学等)に向けての願いも確認した。また、交流活動における問題点を一人一人検討し、今後の指導に生かすようにした。</p> <p><b>【11月】</b></p> <p>中学校進学について、本人や保護者が期待していること、不安に感じていることなど、自由記述でアンケートを取り、それらの回答を基に話し合いを行った。専門家チームから様々な助言をいただき、それらの助言を参考に、保護者に面談時に支援策等について伝えた。</p> <p>(2)について</p> <p><b>【9月】</b></p> <p>中学校の特別支援教育コーディネーターに参加していただき、特別支援学級での生活や部活動など、中学校生活について詳しく話を聞いた。併せて、昨年度までの対象児の中学校での様子についても紹介していただいた。</p> <p><b>【11月】</b></p> <p>本人や保護者が抱えている中学校生活への不安や疑問について話し合った。主なものとして、交友関係やいじめ、学習などが話題に挙がった。卒業後の進路については、様々な選択肢があることについて助言を受けた。</p> |

|        |          |  |
|--------|----------|--|
| 成果とまとめ | 指導目標について | <p>(1)について</p> <p>中学校の先生方に参加していただいたことで、学習や行事、部活動など、より具体的に中学校生活についてイメージをもつことができました。それらのことを、児童や保護者に面談などを通して、情報を共有することができました。</p> <p>(2)について</p> <p>3年間の実践を通して、中学校との連携を強化することができた。卒業した児童の中学校での様子も詳しく知ることができ、卒業した児童の中学校での様子を対象児に紹介したことで、中学校生活への意欲を高めることにつながった。また、中学校にとっても、入学してくる生徒の実態を事前に知り、情報共有することで、今後の指導に生かすことができ、有意義だったという意見を聞くことができた。</p> |
|        | その他      | アンケートの回答から、保護者にとって中学校卒業後の進路についても大きな悩みとして挙げられていた。専門家チームからは、進学や就労について、いろいろな選択肢・可能性があることについての助言をいただき、今後の進路指導に生かすことができた。   |
|        | 今後の課題    | これまで築き上げた中学校との連携を大切に継続していく。情報交換を密にすることで、よりよい学校生活を送ることにつなげていきたい。  |

#### (5)「共に学ぶ教育推進モデル事業」について

##### 幼稚園，小学校，教育委員会の連携体制構築

###### ・連携体制構築について

本校が抱える実情に合わせて、小学校から中学校への引継ぎに重点を置き実践を行った。3年間の実践を通して、中学校との情報交換を行い、連携を図ることができた。

児童の実態について早い段階で情報を共有することは、受け入れる側である中学校にとっても有意義なものとなった。また、学習内容や部活動の在り方など、具体的な中学校生活を知ることによって、児童の中学校生活に対する不安が減り、進学への意欲を高めることにつながった。

###### ・保護者との連携について

保護者に事業に参加していただき、本事業の専門家チームと意見交換する場を設定したり、保護者と児童が回答したアンケートを基に、専門家チームから助言を得ることができた。個々の児童に対して進学や進路に関する助言があり、それらを家庭にフィードバックすることができた。

###### ・教職員，地域への特別支援教育に関する理解啓発について

市内の特別支援教育担当の先生方と本校職員を対象に、具体例を加えながら詳しく専門家チームから講演をいただくことで、インクルーシブ教育システムの理念や考え方等について、研鑽を積むことができた。教職員に本事業の意義を周知することができ、校内の連携体制の強化につながった。